

登壇者プロフィール



神達 岳志氏

常総市長

茨城県常総市出身。上武大学経営情報学部卒。平成3年4月から平成9年9月まで茨城セキスイハイム株式会社勤務。平成9年10月より有限会社カンダツ代表取締役就任。平成22年3月から平成28年6月21日まで茨城県議会議員として3期務める。平成28年8月3日より茨城県常総市長に在任中。



高嶋 哲夫氏

作家

岡山県玉野市出身。慶應義塾大学工学部卒、同大学院修士課程修了。日本原子力研究所(現・日本原子力研究開発機構)研究員の後、作家に転身。昭和54年日本原子力学会技術賞。『帰国』で第24回北日本文学賞、『メルトダウン』で第1回小説現代推理新人賞、『イントルーダー』で第16回サントリーミステリー大賞および読者賞、平成23年神戸市文化賞(芸術・文学)受賞。近著に『富士山噴火』(集英社)、『首都崩壊』『日本核武装』(幻冬舎)など。



三橋 さゆり氏

利根川上流河川事務所長

静岡県袋井市出身。東京工業大学大学院(土木工学)修了。入省後、河川の仕事を中心に歩み、荒川上流河川事務所長、市原市副市長などを経て、本年7月より現職。「ダムカード」制作や「インフラツアー」企画などを通じて、社会資本整備の幅広い広報にも携わっている。現在は利根川の現場を回りながら、先人の治水への尽力を肌で感じるとともに、未来へどう繋げるかを思索する日々である。



清水 義彦氏

群馬大学大学院教授

東京都目黒区出身、東京工業大学大学院理工学研究科修士課程土木工学専攻修了。京都大学、愛媛大学を経て平成3年に群馬大学に着任。現在、群馬大学大学院理工学府教授。平成27年度河川財団賞受賞。主な研究分野は河川水理学、河川工学。とくに河川地形や河川植生の動態予測、河川管理の研究を中心に利根川水系をフィールドとして安全で自然豊かな川づくりのための河川技術を追求している。



寺川 奈津美氏

気象予報士、キャスター

山口県下関市出身。慶応義塾大学工学部卒。平成20年NHK鳥取放送局の情報番組キャスターとなる。平成20年に気象予報士資格を取得後、平成23年4月より「NHKニュース7」(平日担当)に出演。平成28年4月からはフジテレビ「直撃LIVE グッディ!」の気象情報を担当している。理想の気象キャスターになれるよう、奮闘中の毎日。著書「はれますように～未来はきっと変えられる」。



松尾 一郎氏

環境防災総合政策研究機構
環境・防災研究所 副所長
東京大学大学院情報学環
総合防災情報研究センター 客員教授

長崎県長崎市出身。北海道大学大学院環境資源学専攻博士課程単位取得。平成29年4月東京都板橋区総合防災アドバイザー就任。平成7年阪神淡路大震災、平成23年東日本大震災、平成29年九州北部豪雨等の様々な自然災害の調査・研究に従事。平成26年から荒川を始めとする全国各地の水防災タイムラインの検討会の座長を務める。近著に「タイムライン～日本の防災対策が変わる～」(日刊建設工業新聞社、平成28年)、「命を守る水害読本」(毎日新聞出版、平成29年)など。

カスリーン台風による当時の被害の様子



利根川決壊口からの濁流



土手から決壊口を眺める人々



東村(現加須市)付近 利根川の決壊状況



東村(現加須市)付近 浸水状況



幸手町(現幸手市)付近 浸水状況



埼玉県東部地方 浸水状況



足利市 浸水状況



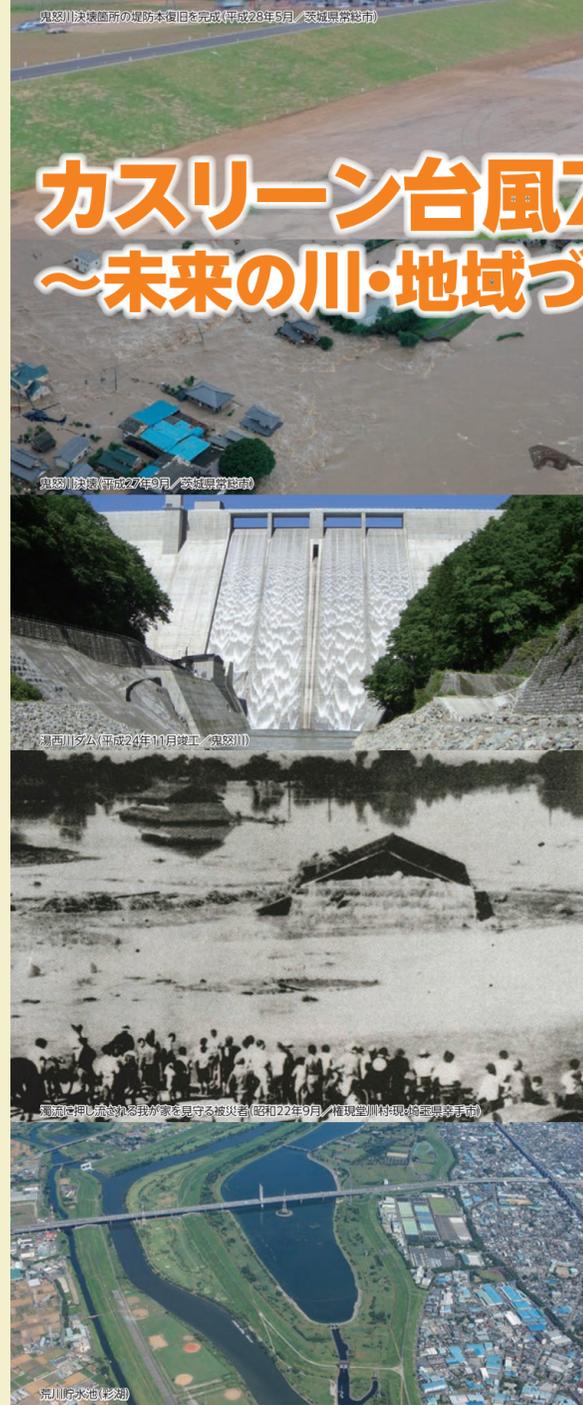
栗橋町(現久喜市) 浸水状況



葛飾区 浸水状況



古谷村(現川越市) 浸水状況



カスリーン台風70年シンポジウム ～未来の川・地域づくりへのメッセージ～

今年、利根川や荒川等の堤防が決壊し、未曾有の大災害となった昭和22年のカスリーン台風から70年という節目の年を迎えます。当時の大災害を振り返り、改めて水害の恐ろしさ、防災・減災の重要性を再認識すると共に、豊かな利根川・荒川流域の恵みを未来の世代に引き継いでいくために、「カスリーン台風70年シンポジウム」を開催します。

日時
平成29年11月25日(土)
開場・受付13:00/開会14:00/閉会16:30

会場
東京国立博物館平成館大講堂
東京都台東区上野公園13-9

主催/カスリーン台風70年実行委員会
(関東地方整備局、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、水資源機構)
共催/茨城新聞社、上毛新聞社、下野新聞社、埼玉新聞社、千葉日報社、東京新聞
後援/全国地方新聞社連合会、朝共同通信社

プログラム		※プログラム内容は変更になる場合がございます。
13:00	開場・受付開始	
14:00	開会	
14:05	『利根川・荒川流域宣言2017』の発表 関係都県知事からのビデオメッセージ放映	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>大井川 和彦 <small>(茨城県知事)</small></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>福田 富一 <small>(栃木県知事)</small></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大澤 正明 <small>(群馬県知事)</small></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上田 清司 <small>(埼玉県知事)</small></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>森田 健作 <small>(千葉県知事)</small></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>小池 百合子 <small>(東京都知事)</small></p> </div> </div>	
14:30	話題提供①『カスリーン台風の被害とその後の治水事業』 清水 義彦氏 <small>群馬大学大学院教授</small>	
	話題提供②『命を守る気象情報～大雨に備える～』 寺川 奈津美氏 <small>気象予報士、キャスター</small>	
15:10	休憩	
15:20	パネルディスカッション『平成・カスリーン台風の襲来に備えて』 ～水災害・いつか来る「その時」、命を守るために～	
	<p>[パネリスト]</p> <p>神達 岳志氏<small>常総市長</small></p> <p>清水 義彦氏<small>群馬大学大学院教授</small></p> <p>高嶋 哲夫氏<small>作家</small></p> <p>寺川 奈津美氏<small>気象予報士、キャスター</small></p> <p>三橋 さゆり氏<small>利根川上流河川事務所長</small></p> <p>[コーディネーター]</p> <p>松尾 一郎氏<small>環境防災総合政策研究機構 環境・防災研究所 副所長 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 客員教授</small></p>	※五十音順
16:30	閉会	

●参加に当たっての注意事項

参加に当たっては、以下の注意事項をご確認いただき、その遵守へのご協力をお願いします。

- ・当日は、他の参加者の迷惑にならないようご協力をお願いします。
- ・事務局の指定した場所以外に立ち入ることはできません。
- ・携帯電話は、マナーモードにするか、電源をお切り下さい。
- ・会場では、着席のうえ、静粛に傍聴して下さい。
- ・会場での飲食及び喫煙はご遠慮下さい。
- ・手荷物・貴重品等の管理は各自にてお願いします。
- ・シンポジウムの円滑な進行のため、係員の誘導、指示に従ってください。

利根川・荒川流域宣言2017 ～安全で豊かな未来の川へ～

今年で、カスリーン台風による大災害から70年が経過します。埼玉県内の利根川及び荒川の堤防を破り、流れ出た濁流は東京都内まで達し広範囲が浸水しました。

茨城県や千葉県でも氾濫被害が発生しました。群馬県や栃木県では土砂災害により多数の方々が犠牲になりました。カスリーン台風は、戦後の荒廃した国土に追い打ちをかけるように、関東一円に甚大な被害をもたらしました。

その後、度重なる治水計画の変遷を経ながら、継続的に河川改修やダム建設、砂防事業等が行われてきましたが、目標とする規模の洪水に対しては、未だ十分な施設が整備されたとは言えません。

また、かつては、水害を「我がこと」として捉え、自ら対処しようとする意識が社会全体に根付いていましたが、最近では、自ら水害を経験したり、過去に災害を経験した世代との交流も少なくなってきたことから、洪水等から身を守る心構えが希薄になりつつあります。

こうした中で、平成27年9月の関東・東北豪雨では、鬼怒川の堤防が決壊し甚大な被害が発生しました。近年、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しており、昨年は北海道や東北、今年は九州北部などと、各地で豪雨災害が頻発しています。また、地球温暖化に伴う気候変動の影響が顕在化しており、今後さらに水害の頻発化・激甚化が懸念されています。

今後、河川の施設の能力を上回る洪水による被害は全国どこでも発生する可能性があります。私たちは、流域一体となって、より一層、水害に強い地域づくりについて考えていかなければなりません。更に、私たちの日々の暮らしは、利根川や荒川の流域がもたらす豊かで清らかな水や広大な河川空間が生み出す豊かな自然環境など、様々な恵みに支えられています。

一方で、気候変動の影響による異常少雨の発生に伴う渇水の深刻化の懸念、都市化の進展に伴い重要性を増している貴重な水辺環境の保全・再生や魅力ある水辺空間の創出が課題となっています。

利根川・荒川流域における治水、利水、環境の整備は極めて重要です。

カスリーン台風から70年の節目に、利根川・荒川流域によって結ばれた運命共同体である私たちは、川の恵みを享受しながら、これからも安心して暮らしていける社会を築くため、「利根川・荒川流域宣言2017」を、次のとおり、宣言します。

1. カスリーン台風の教訓を次世代に継承するとともに、洪水氾濫が発生し得ることも前提として、減災のために社会全体で洪水氾濫に備える「水防災意識社会」を再構築する取り組みを進めていきます。

2. 洪水等による被害を可能な限り防止するため、計画的・着実に治水施設の整備を行うとともに、計画を超える規模の洪水も視野に入れ、流域全体の水害リスクを軽減する施設の整備を進めていきます。

3. 利根川・荒川流域の水の恵みに感謝し、流域一体となってその有効活用に努め、気候変動にも対応する水資源の管理を行っていきます。

4. 地域を活かした魅力ある水辺空間や良好な自然環境の創出を進め、利根川・荒川流域の豊かな水と緑の空間を次世代に残していきます。

2017年(平成29年)11月25日

茨城県知事 大井川和彦

栃木県知事 福田富一

群馬県知事 大澤正明

埼玉県知事 上田清司

千葉県知事 森田健作

東京都知事 小池百合子

独立行政法人水資源機構理事長 甲村謙友

国土交通省関東地方整備局長 泊宏

利根川・荒川流域宣言2017に基づく行動計画

1. 「水防災意識社会」再構築に向けた取組

○水防災意識の啓発のため、平常時から、水害リスクや防災等に関する広報を充実します。

○出水時には、的確な情報提供等により、市町村を支援するとともに、住民の的確な避難行動を促していきます。

2. 流域全体の水害リスク軽減のための治水施設整備に向けた取組

○計画的・着実に、堤防や洪水調節施設等の治水施設の整備を行っていきます。

○洪水調節施設の整備に当たっては、既存の施設や広い川幅等のストックを最大限に活用しながら進めていきます。

○計画を超える規模の洪水も視野に入れ、治水施設の整備のあり方を検討していきます。

3. 流域一体となった水資源の管理に向けた取組

○既存の水資源施設を有効に活用し、効果的・効率的な運用等による低水管理を行っていきます。

○渇水時には、水利使用者間の円滑な調整を行います。

4. 河川を活かした地域づくりに向けた取組

○地域活性化に資するまちと水辺が融合した水辺空間の創出を進めていきます。

○ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化に資する取り組みを進めていきます。

○河川が本来有している自然環境の保全・創出を図る「多自然川づくり」の取組に加え、多様な主体が連携し流域内の水辺環境の連続性を確保する等、河川を基軸とする生態系ネットワークの形成に取り組んでいきます。